

富津市献血推進協議会会議録

1 会議の名称	令和元年度富津市献血推進協議会
2 開催日時	令和元年5月15日(水) 午前11時00分～12時00分
3 開催場所	富津市役所 4階 401会議室
4 審議等事項	(1) 平成30年度富津市献血推進協議会 事業実績報告について (2) 令和元年度富津市献血推進協議会 事業実施計画(案)について
5 出席者名	献血推進協議会委員(11名) 高橋恭市、島津 太、大嶋英二郎、三枝奈芳紀、 水町裕義、橋本 茂、中山史生、杉本秀幸、 大野泰代、斉藤 正、岩崎 脩 千葉県赤十字血液センター(2名) 事業課長 伊藤基之、事業課主事 北村俊貴 事務局(3名) 健康づくり課長 牧野常夫、 健康づくり課 係長 平野重樹、 健康づくり課 主事 大山幸人
6 公開又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部非公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当
8 傍聴人数	0人(定員10人)
9 所管課	健康福祉部健康づくり課 電話 0439-80-1268
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

令和元年度富津市献血推進協議会会議録

発言者	発言内容
<p>牧野課長 (事務局)</p>	<p>令和元年度富津市献血推進協議会の開会を宣言</p> <p>本日の会議が15名のうち、出席委員11名、欠席委員4名で、会議が成立することを報告 会議の公開について説明 本日は傍聴人はいない。</p> <p>出席委員、千葉県赤十字血液センター職員及び事務局職員の紹介</p>
<p>会長 (市長)</p>	<p>会長挨拶</p>
<p>牧野課長 (事務局)</p>	<p>議事進行が、協議会設置要綱第6条により会長であることを説明</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>議長を務めさせていただく。 会議録署名委員の指名 指名は会長一任でよろしいか。</p>
<p>委員一同</p>	<p>異議なし</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>会議録署名委員は、大野委員と岩崎委員を指名 次第4、議事に入る 議題(1)平成30年度富津市献血推進協議会事業実績報告について、事務局の説明を求める。</p>
<p>平野係長 (事務局)</p>	<p>資料により説明 (説明要旨) 平成30年度富津市献血推進協議会事業実績報告 400ml 献血 954人 200ml 献血 17人 合計 971人 31会場で実施</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>質問があればお願いしたい。</p>
<p>三枝 奈芳紀 (一般社団法人君津 木更津医師会)</p>	<p>目標値の出し方を知りたい。</p>

平野係長	昨年度の実績数値を基に決めている。
三枝 奈芳紀 (一般社団法人君津 木更津医師会)	県の目標値の出し方を知りたい。
伊藤事業課長 (献血センター)	県内の輸血使用量を基に、各市の献血週間可能人口の按分比率で各市の目標を決めている。
橋本 茂 (日本製鉄株式会社 技術開発本部)	町で見かける献血は足りない場合が多いが実際の実績では不足しているのか。
伊藤事業課長 (献血センター)	目標の達成率は厳しい状況。輸血使用量を予測し採血計画を組み、目標を達成できるよう呼びかけている。
議長 (市長)	他に質問がないため、承認としたい。 (2) 令和元年度富津市献血推進協議会事業実施計画 (案) について、事務局の説明を求める。
平野係長 (事務局)	資料により説明 (説明要旨) 令和元年度富津市献血推進協議会事業実施計画 (案) 令和元年度献血目標 県目標 400ml 献血 540 人 200ml 献血 20 人 合計 560 人 市目標 400ml 献血 960 人 200ml 献血 20 人 合計 980 人
議長 (市長)	質問があればお願いしたい。
委員一同	特になし
議長 (市長)	質問ないため承認としたい。 以上で本日の議事を終了する。 議長の職を解く。
牧野課長 (事務局)	続いて次第5、千葉県献血状況について説明いただく。
伊藤事業課長 (献血センター)	挨拶 千葉県の献血状況について
北村主事	千葉県では、輸血用血液製剤の需要が高い状況が続いている。昨

(献血センター)

年は延べ 774,882 単位 (対計画比 95.0%) であった。

この需要に対応するために、県内の献血ルーム 6 か所と移動採血車 10 台において、延べ 218,262 人 (対計画比 95.0%) という多くの方にご協力いただくことができた。特に、医療機関から需要の高い 400mL 献血や成分献血を中心とした協力が安定的な供給に繋がったほか、西日本豪雨等の災害時には、関東甲信越ブロック血液センターを通じ輸血用血液製剤の支援を実施。

次に輸血用血液製剤供給状況について、平成 28 年度、29 年度は上昇傾向にあるが 30 年度は減少傾向にある。30 年度では赤血球製剤が計画が 313,000 単位に対し実績が 302,612 単位。血漿製剤が計画が 115,000 単位に対し実績が 114,545 単位。血小板製剤が計画が 386,000 単位に対し実績が 357,725 単位と減少傾向にある。大幅な需要増加を見込んだ平成 30 年度計画値を下回り、各製剤とも落ち着いた状況となった。

次に輸血用血液製剤製造数と供給数の状況について。献血状況から見ると 400mL 献血は 30 年度目標数が 159,349 に対し実績が 152,687 人 (95.8%) 前年比 -1,740 人。200mL 献血が 6,688 人に対し実績が 7,086 人 (106.0%) 前年比 +206 人。血漿成分献血が 40,343 人に対し実績が 37,436 人 (92.8%) 前年比 +2,605 人。血小板成分献血が 23,356 人に対し実績が 21,053 人 (90.1%) 前年比 -2,682 人。合計が 229,736 人に対し実績が 218,262 人 (95.0%) 前年比 -1,611 人となっている。製造数と供給数の状況を見ると赤血球製剤 (400mL 献血由来) 30 年度製造単位数が 295,570 単位に対し 30 年度供給単位数が 295,910 単位 (前年比 -340 単位)。赤血球製剤 (200mL 献血由来) が製造数が 6,864 単位に対し供給数が 6,702 単位 (前年比 +162)。血漿製剤が製造数が 143,092 単位に対し供給数が 114,545 単位 (前年比 +28,547)。血小板製剤が製造数が 356,199 単位に対し供給数が 357,735 単位 (前年比 -1,526)。合計製造数 801,725 単位に対し合計供給数が 774,882 単位 (前年比 -26,843 単位) となっている。医療機関需要の高い 400mL 献血及び血小板成分献血の他、近年需要が増加している血漿分画製剤の血漿成分献血に協力いただいた。県内医療機関需要に見合う協力を頂き、なお血小板成分献血 (平日) や血漿分画製剤の成分献血は、更なる協力が必要。

次に年代別献血状況について。千葉県では若年層 (10 代 ~ 30 代) の献血者数が 10 年前に比べ 38.5% 減少。今後の献血基盤となる若年層に協力をお願いするため、大学・専門学校・高等学校等における献血実施、献血セミナー開催、千葉県学生献血推進協議会メンバーによる同世代への献血啓発、献血ルームにおける体験やキャンペーンなどを通じて、献血の普及啓発を実施していく。

次に平成 31 年度供給計画・献血目標について。千葉県の平成 31 年度の供給計画数は、近年の県内医療機関の輸血用血液製剤の需要動向、輸血用血液製剤の供給予測数及び血漿分画製剤の製造に必要な原料血漿の当血液センター確保割当量を基本として策定した。献血目標数は医療機関から需要の高い 400mL 献血、高単位血小板成

分献血(分割血小板)および分画製剤製造用血漿成分献血に重点をおき、これらの策定値は平成31年1月24日に開催された千葉県献血推進協議会において供給計画数780,000単位、献血目標226,664人と決定した。平成31年度計画数をみると、赤血球製剤が304,000単位、血漿製剤が110,000単位、血小板製剤が366,000単位、合計が780,000単位。平成30年度計画数が赤血球製剤が313,000単位、血漿製剤が115,000単位、血小板製剤が386,000単位、合計が814,000単位。31年度と30年度の増減の差は、赤血球製剤が-9,000単位、血漿製剤が-5,000単位、血小板製剤が-20,000、合計が-34,000単位。平成31年度献血目標をみると、400mL献血が154,254人、200mL献血が4,801人、血漿成分献血が45,634人、血小板成分献血が21,975人、合計が226,664人。平成30年度目標数が400mL献血が159,349人、200mL献血が6,688人、血漿成分献血40,343人、血小板成分献血が23,356人、合計が229,736人。31年度と30年度の増減の差は、400mL献血が-5,095人、200mL献血が-1,887人、血漿成分献血が+5,291人、血小板成分献血が-1,381人、合計が-3,072人。平成28年度29年度に比べ落ち着いたが供給数が大幅に増加しているためこれからも献血への協力をお願いしたい。

牧野課長
(事務局)

何かあれば質問をお願いしたい。

橋本 茂
(日本製鉄株式会社
技術開発本部)

献血へ参加するとグッズが貰えるがプリペイドカードや商品券、あるいはコンビニなどの提供で動かすのはできないのか。

伊藤事業課長
(献血センター)

血液法で有償採血の禁止があり、換金できるものの配布を禁止しておりささやかなグッズを配布している。

杉本秀幸
(富津市商工会)

献血量が足りない場合は近隣の県からもらうのか。

伊藤事業課長
(献血センター)

借りています。

杉本秀幸
(富津市商工会)

関東では足りているのか。

伊藤事業課長
(献血センター)

いまのところ足りている。需給調整をして近場であれば東京から借りたりしているが、東京以外も厳しい状況にあるため、どこから出てくるか分からない状態なので、北海道や九州から飛行機や新幹線で送ってもらったりして、迅速に供給できるようにしている。

<p>牧野課長 (事務局)</p>	<p>他に質問はあるか。</p>
<p>委員一同</p>	<p>特になし</p>
<p>牧野課長 (事務局)</p>	<p>以上で本日の会議を終了する。 令和元年度富津市献血推進協議会の閉会を宣言</p>